



第1回日本木材保存協会功績賞

「木材の耐候性に関する研究業績と木材保存広報活動への貢献」

木口 実 (日本大学生物資源科学部)

1982年東京農工大学農学部林産学科を卒業後、1984年同大学大学院農学研究科林産学専攻修士課程を修了、1984年農林水産省林野庁林業試験場に入省し、2004年(独)森林総合研究所木材保存研究室長、2013年研究コーディネータ(木質バイオマス利用研究担当)、2017年九州支所長を経て、2018年に日本大学教授となり、現在に至る。

業績概要

屋外に使用する木材、木質材料の耐候性に関する研究において、気象劣化現象の把握及び耐候性向上技術に関する研究を進めています。気象劣化因子と木材表面の劣化との関係をXPS等の表面分析により明らかにすると共に、木材表面への紫外線吸収剤のグラフト処理等の表面改質技術や木材保護塗料の性能評価技術の開発等により、我が国の耐候性研究で先導的な役割を果たしています。これらの研究成果は、ISOやJIS、AQ等の規格化に貢献すると共に、各種仕様書等で取り上げられて来ました。

一方、公益社団法人日本木材保存協会との関わりについては、1992年から2015年までの23年間に渡り広報委員会において「木材保存」誌の編集に関わってきました。今村編集委員長の下ではJ-Stageへの登録作業の中心的な役割を果たし、山本編集委員長の下では新設された地域のページの原稿の掘り起こしを行う等、保存誌の紙面充実に尽力しました。2007年5月から2015年3月には編集委員長として計48号の木材保存誌を発行しました。その間、J-Stageにおける木材保存誌へのアクセス状況を分析して編集方針に役立て、タイトルと著者の英文表示を行い海外からのアクセスに対応させる等、保存誌の認知向上に大きく貢献しました。また、2001年から2005年には年次大会実行委員長として5回の年次大会を成功させ、協会の広報活動に貢献しました。

研究業績

- 1) 木口実：木材の気象劣化と耐候処理 1. 木材の劣化気象因子と劣化機構, 木材保存, **19** (6), 3-12 (1993).
- 2) 木口実：木材の気象劣化と耐候処理 2. 木材の耐候処理技術, 木材保存, **20** (2), 2-9 (1994).
- 3) 木口実, 片岡厚, 土居修一, 森満範, 長谷川益夫, 森田慎一, 金城勝, 嘉手苺幸男, 今村祐嗣：地域別暴露による木材保護着色塗料の耐候性評価, 木材保存, **22** (3), 17-25 (1996).
- 4) M. Kiguchi, P.D. Evans : Photostabilisation of Wood Surfaces Using a Grafted Benzophenone UV Absorber, *Polymer Degradation and Stability*, **61**, 33-45 (1998).
- 5) Makoto Kiguchi, Yutaka Kataoka, Hiroshi Matsunaga, Koichi Yamamoto, Philip D. Evans : Surface deterioration of wood-flour polypropylene composites by weathering trials, *Journal of Wood Science*, **53**, 234-238 (2007).
- 6) 木口実, 片岡厚, 松永浩史, 桃原郁夫, 川元スミレ, 大友祐晋：木粉・プラスチック複合材(混練型WPC)の耐久性(1)耐水性に及ぼす木粉含有率の影響, 木材保存, **36** (2), 52-58 (2010).

